

# 発声発語障害学 (旧カリ用)

[講義] 第2学年 後期 必修 2.5単位

《担当者名》○鈴木瑞恵 mizue.suzuki@hoku-iryu-u.ac.jp 永見慎輔

## 【概要】

言語聴覚障害学の各論のひとつである発声発語障害のうち、運動障害性構音障害、器質性構音障害について学ぶ。

## 【学修目標】

<一般目標>

運動障害性構音障害、器質性構音障害とリハビリテーションについて理解する。

<行動目標>

1. 発声発語障害の基本的な理解を深める。
2. 運動障害性構音障害および器質性構音障害の評価と介入方法について説明できる。
3. 発声発語の各側面の評価方法を理解し、適用できる。
4. 神経学的検査を含む発声発語の変化の原因を把握し、評価方法を説明できる。
5. コミュニケーション障害の主要因を特定し、適切な介入を行える。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 4	発声発語障害の概要	発声発語障害の特徴を理解する。	鈴木瑞恵
5 ) 9	運動障害性構音障害の概要と評価	運動障害性構音障害の評価方法を理解する。	鈴木瑞恵
10 ) 13	運動障害性構音障害の介入	運動障害性構音障害の介入方法を理解する。	鈴木瑞恵
14 ) 18	器質性構音障害の評価	器質性構音障害の特徴を理解する。	永見慎輔
19	器質性構音障害の介入	器質性構音障害のリハビリテーションの実際	永見慎輔

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

定期試験(筆記試験)100%

## 【教科書】

西尾正輝 著 「ディサースリア 臨床標準テキスト 第2版」 医歯薬出版 2022年  
熊倉勇美 他 編 「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」 医学書院 2021年  
倉智雅子 他 編 「最新言語聴覚学講座 言語聴覚障害学概論」 医歯薬出版 2023年  
道 健一 他 編 「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版 器質性構音障害」 医歯薬出版 2016年  
江藤文夫 他 編 「神経内科学テキスト 改訂第4版」 南江堂 2017年

## 【参考書】

Raphael, L. J. 他 著 廣瀬肇 訳 「新ことばの科学入門 第2版」 医学書院 2010年  
岡崎恵子 他 編 「口蓋裂の言語臨床 第3版」 医学書院 2011年  
廣瀬肇 他 著 「言語聴覚士のための運動障害性構音障害」 医歯薬出版 2011年  
溝尻源太郎 他 編著 「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害、摂食・嚥下障害」 医歯薬出版 2000年  
伊藤元信 他 編 「言語治療ハンドブック」 医歯薬出版 2017年  
阿部雅子 著 「構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版」 金原出版 2008年  
廣瀬肇 監 「発話障害へのアプローチ - 診療の基礎と実際 - 」 インテルナ出版 2015年

**【備考】**

この授業の一部は、2025年度入学者対象の「発声発語障害学」と同時開講される。

**【学修の準備】**

解剖生理学、基礎人間科学、音声学、音響学、神経学、音声言語聴覚医学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学などの関連基礎科目をよく復習しておくこと。(80分)

講義で提示された課題を解き解説を作成すること。(80分)

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

(DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

永見慎輔、鈴木瑞恵（言語聴覚士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

永見慎輔、鈴木瑞恵：医療機関のリハビリテーション部での実務経験を活かし、運動障害性構音障害、器質性構音障害のリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している